

県北 どらくろあ

第10号 2017年1月1日（毎月1日発行）

県北群星伝⑦ 博物の探究者

なかむらしんご

中村慎吾 85歳（庄原市西本町）

カメムシという虫がいる。クサガメ（臭亀）に似ているからその名がついたといわれている。全国的に方言が多い虫で、その分泌物の異臭から、ヘクサムシやヘコキムシと呼ばれている地方もある。

カメムシ類の害を封じることから生まれた等々、諸説が存在する。

中村慎吾著の「虫と草木と人びと」と「第2集に、「カメムシ方言考」が収載されている。カメムシの生態を知るために

カメムシのハットウジの方言は、岡山県と広島県を中心に、鳥取県と島根県に分布している。これは、岡山県吉永町にある天台宗の古刹、照鏡山八塔寺に由来するという説や、特定の寺の名前ではなく法塔のある立派な寺の意で、



その生態には人間の生活が密接に関係している。自然科学だけではなく、郷土史や民俗

学の豊富な知識が求められる。これはもう、博物学の世界だ。「生きものたちの持つ限りない魅力に引かれ、その生きものを求め、その生きものの暮しを求めて、倦むことを知らない知識欲、それが博物学の源泉なのである。」と、中村さんは自身の著作「虫と草木と人びと」で書いている。

そのとき「比和小学校助教諭」の辞令を渡したのが廣瀬繁登さんで、運命の出会いとなった。廣瀬さんは、比婆科学教育振興会の創立メンバーであり、後に庄原市社会教育委員、広島県自然環境保全審議会委員、広島県文化財保護指導員などの要職を歴任。知的好奇心にあふれ、その研究テーマは植物、古生物、民俗、郷土史と広大で、博覧強記の博物学者だった。後年、比婆科学教育振興会の会報「比婆科学」の編集をまかされるようになった中村さんは、身近で廣瀬さんの薫陶を受けることになる。

「日本産カミキリムシ食樹総目録」（小島圭三と共著）、「広島県昆虫誌Ⅰ、Ⅱ」、「広島県の蝶過去と現状」、「里山学入門」、「ひろしま海と山の博物誌」、「ひろしま県北の草花（春）（初夏）（夏）（秋）」（小川光昭と共著）等々、中村さんが出版した本は多岐にわたる。

中村さんは代用教員として教鞭を取りながら、法政大学文学部史学科を通信教育で受講。昭和二十九年に卒業して、正式な教員資格を取得した。比婆郡内（当時）の小・中学校の教師を続けるが、文部省（現・文部科学省）の「在外教育施設への教員派遣制度」に応募して、昭和四十六年に台湾の台北日本人学校に赴任。在職期間は三年だった。

中村さんは比婆郡比和町（現・庄原市比和町）の生まれだが、家庭の事情で翌年には韓国忠清南道に移住。中村さんが比和に戻って来たのは終戦後で、広島県立格致中学校（現・格致高校）三年に転入学、昭和二十三年に卒業している。広島高等師範学校（現・広島大学）に進学する予定だったが、父親の胃癌が発覚、小学校の代用教員として家族の生活を支える道を選ぶ。十七歳だった。

「外国の虫や植物を調べてみたいという思いがあったのは確かです」

九州よりも少し面積の小さい台湾に、日本全土にすむチョウの一・八倍近い約四百六十種が生息している。中村さんのライフワークの研究対象であるカミキリムシは六百五十種を超えて、日本全土に匹敵するだけの種類が生息している。

どうしてカミキリムシなんですか、という質問に「かっこいいじゃないですか」と少年のような笑顔で中村さん。カミキリムシの研究者は、チョウに次いで多いのだという。中村さんは、カミキリムシの研究論文が認められて、九州大学より農学博士の学位が授与されている。

「広島県の絶滅のおそれのある野生生物を調べていく中で、絶滅のおそれのあるチョウの大半が里山と結びついたチョウであることがわかり、それら絶滅のおそれのあるチョウを守るには里山を守る以外、方法がないと考えるようになり、柄にもなく里山のことには手を染めることになったのです。」（「里山学入門」）

自宅にある膨大な書籍は、人間を含めた「生きもの」への愛情と好奇心の大きさの証だろう。その全貌を紹介するには、紙面もわたしの筆力も不足している。中村さんが名誉館長の比和自然科学博物館（☎0824・85・3005）を見学することを勧めたい。博物学の端緒を体感できるはずである。

図書館員ノート⑤

「明るく声に出してみよう」

古い話だが、図書館司書の資格取得のために学んでいる時、「知りたがりやのガン患者」（種村エイ子・著、一九九六年・農山漁村文化協会）という本に出会った。

進行性胃がんのため、胃の全摘手術を受けた鹿児島県在住の図書館司書が書かれた本だ。

自分で調べたり、信頼できる誰か

に相談し、まずは対峙する病気を知ること、不安は和らげられるということ、図書館と司書が役にたつ大切な場面だということ、改めて肝に銘じた。

また、家族やご自身が、告げられた病気について、医師から勧められた本や関連する本、病後の暮らし方など、よりよく生きるための情報を求めて来館される方が、最近、少しずつ増えているように感じる。はたしてお役に立てているか……。

二〇一一年、縁あって、「患者図書館司書養成講座（図書館員のための医学講座）」を受講した。ほとんどの参加者が、休暇を取っての自主的な参加だった。全国から集まった受講者の熱意とレベルの高さに驚いた。

昨年、正月、「行ってみたいところが二つある。一つはマツダ球場。もう一つは、石見銀山にある群言堂」と、家族に話した。

七月、「ピースナイターのケケツトが手に入るよ」と知らせが入り、孫たちとの観戦が叶った。

十月、群言堂を訪れる機会に恵まれた。幸運にも、二つとも叶ったのだ。

言葉や声には魂が宿るそうだから、自分も含め、誰かの心のどこかにとどまって、大きく育つてくれるのかもしれない。

今年も明るく声に出してみよう。「私は、患者とその家族の役にたてる、患者図書館を、いつか作りたい」と。

何年もの間、胸の中で育ててきた夢だが、やっぱり、明るく声に出すことにした。大きく育つことを夢見ながら。

明るい声を出そうとすると、口角がきゅっと上がり、自然と気持ちも明るくなり、元気がでる。笑う門には福来る！

今年もみんなで明るく元気に過ごしたい。

三次市立甲奴図書館 T・T



『飛ぶ教室』

—— ドイツの子は勇気を求める

『飛ぶ教室』は、ドイツの高等中学生徒の起伏に富んだ寄宿舎生活を描いた物語です。といっても、クリスマススをひかえたほんの数日の出来事を追っているだけです。それなのにドイツの学校生活や生徒たちの気質をすっかり知った気分させる小説です。

作者ケストナーはドイツの作家で、第2次大戦後は西ドイツペンクラブの初代会長になっています。この作品は1933年の発表。ナチスといつて、国家による統制が極端に厳しい独裁政治のもとで出版され、人気を得ました。

物語は、ヨハン・ジギスムント高等中学（中高一貫のギムナジウム）の高等科1年生の男子生徒5人が学校のクリスマス会で演じる劇「飛ぶ教室」の練習から始まります。

劇では生徒たちが飛行機に乗って世界を現地見学しますが、操縦を誤って天国に行くという奇妙な展開です。ナチスへの抵抗の寓意があるのではないかと想像すれば、少し分かる気がします。

練習中の体育館に、同級生の2人が、昔から対立していた実業学校の生徒に襲われ、1人が人質になった

との知らせが入ります。5人は迷わず寮を飛び出します。でも、まず信賴する町の人「禁煙先生」に相談します。この人は客車を買って取つて、そこで毎日、本を読んで暮らす風変わりな人です。5人は、いろいろ作戦を立てて、人質を取りかえします。

また読んでみたい本⑩

少年少女たちへ

音谷 健郎



【飛ぶ教室 さし絵】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介していきます。

第10回目は『飛ぶ教室』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

少年たちの意地と、テキパキとした判断が前半の見せ場です。

次には、厳しい寮の規則違反に対する罰が待っています。「正義先生」とあだ名された舎監の爽やかな処分が、読む者をうならせます。

5人は、クリスマス帰省を控えて

再び劇の練習に戻りますが、中心になるマルチンに母親から悲しい手紙が届きます。帰省の旅費が工面できないというのです。涙を見せまいとこらえ、劇にも授業にも打ち込めないマルチン。この間にも、いろいろなことが起こります。

でも、最後には郷里でうち沈んでいる両親の前に、マルチンは立つことができたのです。

物語では、みんなの気持ちを代弁するように「禁煙先生」がこんなことを言います。「ほんとに大切なことを思い出す時間を持つ人が、もっと多くいてほしい。金と位と名誉なんて、子どもじみたものじゃないか！」と。

読者の私も、少年たちの勇気を持つとうとする心や仲間をかえりみる心、時に失敗し悩む姿に喜んだり心配したりと大変でした。

創刊号（昨年4月）のこの欄で、『クオレ』を取り上げたのを覚えていますか。イタリアの小学校で、主人公が「自立」に向かって成長する様が描かれていました。このような、少年が仲間とスクラムを組んだ小説をもっと読みたいとたどり着いたのが、長編の『次郎物語』（2号掲載）でした。慈悲の心、つまり人を思いやる心を強調していました。

これらの小説を比べてみると、少年の気持ちは国ごとに少しずつ違いますが、描かれ方をしているのに気づきます。国ごと時代ごとに、少年に寄せられる大人（作家）の期待は違うようです。

新年号ということで、今回は「現代御伽草子」を休載して、「どら書房」のことを書かせてください。

わたしが古本屋のどら書房を、庄原市の商店街でオープンしたのは平成二十六年九月一日。そのときはまだ調剤薬局のパートで働いていたので、週四日営業でした。昨年の年初から古本屋専門になって、ちょうど一年が経過します。

古本屋をやってみようと決意したのは、一冊の本の存在があります。タイトルは「わたしの小さな古本屋」、著者は岡山の倉敷で「蟲文庫」という古書店を経営している田中美保さん。田園文化センター内にある図書館で、新着図書の棚に並んでいた本です。

田中さんが古本屋をやるうと思っただのは二十一歳のとき。開業資金は当時の全財産である百万円の貯金だけ。本を書くにあたって、古本屋の開業資金は通常五百万から一千万円です。よと編集者から聞かされて、知らなかったと田中さんは素直に驚いています。

どうにか貸店舗を確保して、材木屋で安く卸してもらった杉板で本棚造り。ようやく開店までこぎつけても、売るべき本があまりなくて、駄

菓子や手作りの手提げ袋などを併売していたそうです。

これでは当然、生活が成り立つはずもなく、珈琲のチェーン店やパン屋の厨房、コンビニのレジ、郵便局の内勤業務などなど、店の営業時間とかぶらない早朝や夜間に、アルバイトに追われることになりました。

田中さんが古本屋だけに専念できるようにになったのは開業して十年が

うか。」

「ほかの古本屋での修行期間はもちろん、知識も心構えも、ついでにプラグも野望も、あまりありませんでした。でも、それ以外の何も思いつかなかったのです。」

羨ましいと思いました。「蟲文庫」の店主は、若くして自分の居場所を見つけた……、いや、二十年の歳月をかけて、自分の居場所をコツコツ

「古本屋のおやじ」の 専業になって一年

どら書房店主・赤川仁洋

経った頃、それも店の利益が上がったからではなくて、父親の看病がきつ

かけだったそうです。今でも経営はぎりぎり、経済状況は低空飛行、かくも古本屋は儲からない……。

どうして古本屋になったのか、田中さんは著作の中で告白しています。「何屋さんになりたい、というのではなく、ただただ自分の居場所がほしかった、と言ったほうが適切でしょ

とつくり上げたのでしよう。

活字ジャンキーを自認しているわたしも、自分で本屋や古本屋をやってみたいという願望はあったのですが、素人が手を出してはいけない専門職、という固定観念がありました。

この本を読んで、まさに目から鱗が落ちたのです。

わたしには、父親が遺してくれた薬局の店舗があります。薬局として

は、もう十年以上も前に廃業しているのですが、商品棚や商品ケースはそのまま使えそうです。その年の年賀状で友人知人に「古本屋開業宣言」、不要な本があつたら着払いで送ってほしいとお願ひしました。それで集まった本と自分の持っている本が、どら書房のベースになります。

タイミングもあつたのだと思います。わたしが単身での帰郷を決意したのは、くも膜下出血で倒れた母親を自宅で介護するため。このまま介護生活が続くのだと覚悟していました。外に出られないのであれば、自宅に自分の居場所を作るしかない。鬱屈した感情が蓄積されていたのでしようね。古本屋をやるうと決意した理由の一つです。

しかし、どら書房を開業して一ヵ月後に母親が体調を崩して病院に入院、どうにか体調は持ち直したものの、これ以上の自宅介護は無理というところで、今は介護専門病院に入所しています。十二年にわたる介護生活から開放されたわけですが、もしこれがどら書房開業の前であれば、古本屋をやっていたいなかっただでしょうね。今までの反動で、糸の切れた風船のように放浪の旅にでも出ていた

かもしれません。

どら書房の「どら」は、どら息子の「どら」です。祖父が薬店を開業してからわたしで三代目、その店を自分の代でつぶしてしまっただけという自嘲があるのですが、辞書を引くと「どら」には道楽という意味もあります。

田中さんの本を読んでも、古書店経営は、経済的には厳しいことがわかります。しかし、道楽なのだ割り切って始めれば、怖いものはありません。家賃がいらぬのも有利な点です。店の改装も、できるところ

は自分でやりました。

地元の知り合いの業者さんにお願いで、改装にかかった費用は百五十万円弱。市の「まちなか活性化補助金」で、三分の一の五十万円が戻ってきました。エアコンを設置したり、自分で棚を作ったりで、店内の備品にかかった費用は多めに見積もって三十万円。おおよそ百三十万円です。どら書房がオープンできたことになります。

古本屋に限らず、中古の物品を扱うには古物商許可証が必要です。盗品の売買のチェックが目的なので、地元の警察署の防犯課が窓口で、申請書や必要な書類のリストをもらえます。申請から一カ月ぐらい時間はかかりますが、試験などもなく、社会生活を送ることに支障のない人であれば問題なく許可証が交付されます。手数料は、前払いで一万九千円。

売上はやはり低空飛行で、古本屋専業になってからでも毎月、七万から十万円の間で推移しています。売上がそのレベルですから、利益となるとその半分もあるかどうか。

在庫の本は増え続けています。高齢者の多い山間の過疎地では、本を買いたい人よりも、本を処分したい人の方が多いでしょうね。ゴミと

して出される書籍を商品として再生させるのも、古本屋の重要な使命だと思います。そして、今年こそはネット販売を始めようと考えています。そうすれば、道楽からビジネスへと転換できるかもしれません。

冒頭にも書きましたが、古本屋専業となって一年が経過しました。身に染みて思ったことは、とにかく時間が足りないこと。同業者の人と話をする機会があったのですが、「古本屋は忙しい商売ですよ」と言われました。引き取った本や棚の整理をしているだけで、あつという間に時間が過ぎてしまいます。今年から、月、火曜日が定休の週休二日にすることを決めました。今までは、月曜日は第一、第三が休みの隔週休二日。未だに、試行錯誤の連続です。

棚や本が増えて、次第に古本屋らしくなっていく店内を見渡して、今さらのように驚いている自分がいます。一冊の本が、老境の入り口にいる五十七歳（当時）のおじさんの運命を変えてしまったのですから、本の影響力は凄いですね。田中美保さんの本と出会わなければ、「どらくろあ」も存在していません。

これからも、たくさんの本や人の出会いを、楽しみにしています。

まつの古本屋さん
どら書房
古書探索の旅に、お立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

●庄原市中本町2-1-10 ●定休日：毎週月・火曜日
●営業時間：9:30~19:00 ●TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円>



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「葉桜の季節に君を想うということ」

歌野晶午 著 文芸春秋

「何でもやってやる屋」を自称する元私立探偵・成瀬将虎は、ひょんなことから靈感商法事件に巻き込まれる。そして、運命の女性と出会うことになるのだが、その冒険活劇の行方は？

推理小説の一番の醍醐味は、結末の意外性にある。本格推理ものはけっこう読んできたつもりだが、この小説の結末には「おったまげた」。こんなものありかよー、と叫んだ後に、こんなこと



もできるんだと感心、いや感嘆した。異次元の謎が、いや魔法が、この物語にはかけられている。映像化不可能を謳った作品は数多いが、この作品だけは絶対に無理。2004年のあらゆるミステリーの賞を総なめにした小説である。

「寿フォーエバー」

山本久幸 著 河出書房新社

結婚式場に勤める井倉靖子は、男性経験ほぼゼロで、仕事も私生活も崖っぷちのアラサー女子。そんな彼女が、他人の幸せをサポートする職場で奮闘する姿が情感豊に描かれている。超ド派手なセレブ婚のカップルの我儘に振り回されたり、近隣のライバル店の出現など難題が山積。人生の一大イベントの舞台裏は、笑いあり、涙ありでドラマチック。



世知辛い世の中なれば、せめて虚構の世界だけでも幸せな気分になりたいもの。山本久幸の本は、安心して読むことができる。ハッピーな気分にしてくれる。今まで読んだ本で、ハズレは一つもない。どの作品を紹介するか、迷ってしまった。

「美男城」

柴田錬三郎 著 新潮文庫

時代小説ブームである。出版不況と言われるようになって久しいが、佐伯泰英の名前を出すまでもなく、時代小説はコンスタントに売れている。どら書房の売れ筋でもある。

わたしもかつて、時代小説に熱中していた頃がある。好きな作家は「シバレン」こと柴田錬三郎。映画化された眠狂四郎シリーズが有名だが、わたしがいちばん気に入っているのが「美



男城」。関ヶ原の合戦で侍大将として戦功を上げた青年剣士・御堂主馬之介が主人公。廃墟になった城郭の中で、城主の遺児である主馬之介に献身的に尽くす下婢（はしため）の朝路に、自分の理想の女性像を重ねたものだ。恋と冒険の一大戦国ロマン。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

プーチンの通りし山の眠りけり

近藤 昌平

山毛櫟^{ぶな}落ち葉型どり作る土の笛

原博己

夜半^{よわ}の雨大地を洗い初御空^み

片岡 正人

もう一つ年をとるかともちをつき

隆愚

くたびれし毛糸の靴下右左

赤川 冬人

投稿&寄稿

「お婆ちゃん雲」

富久光

(寿山久代お婆ちゃん)

まっ青に澄みきった空
ひとかたまりの白い大きな雲が浮かんで
いる

ずっしりと重そうな雲だ

大きな家にお婆ちゃんは一人で住んでい
た

何時も縁側できちんと姿勢良く坐って
編み物をしていた

真一文字に結んだ口元はとても頑固そう
でも老眼鏡の奥で澄みきった眼は
優しかった

まっ青に澄みきった空
お婆ちゃんの散歩は
近くのコンビニへの買い物
町で出会うと何時も大きな買い物袋
小脇に抱え

片方の手を大きく上げて
元気のいい声で「こんにちわ」

まっ青に澄みきった空
お婆ちゃんは雲になった
白熊みたいに大きな雲になった
泣いているのか笑っているのか
お婆ちゃん雲はきらきら光っている

どら書房委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中!

今月のどらさん



絵・風太

「国兼池の思い出」 M・A

子供の頃から、国兼池が遊び場
だった。街中からちよつと離れてい
るが、坂道をてくてく歩いて登ると、
雑木林の中に国兼池があった。

高校の時に国兼池の伝説を知っ
た。氾濫を繰り返す溜池の鎮守のた
めに、国さんと兼さんの美人姉妹が
人柱として埋められたという。ちよ
うど映画の「夜叉ヶ池」をテレビで
見た頃で、国兼池にその映画のイ
メージを重ねたものだ。

龍神伝説の「夜叉ヶ池」は泉鏡花
の戯曲が原作で、篠田正浩監督、坂
東玉三郎主演で映画化された。「女
優」の玉三郎の妖艶な演技が話題に
なった。

国兼池の水辺に一人でたたずんで
いると、玉三郎のような美人の姉妹
が姿を現してくれるのではないか、そ
んなことを夢想していた。それだけ
神秘的な雰囲気を持っていた。

しばらく前の新聞で、備北丘陵公
園の北入口一帯が、来年度から実験
的に無料開放されるとい記事を読
んだ。もし、国兼池のエリアも無料
開放されるのであれば、また散歩に
出かけてみたいと思っている。

庄原名称探訪

「地名の由来」参考年表

寺岡隆行

- | 西暦 | (年号) | |
|--------|---------|--|
| ◆668年 | (白鳳時代) | 宮内に神福寺建立。高句麗滅亡。 |
| ◆741年 | (天平13年) | 国分寺・国分尼寺、建立の詔(みことのり)。 |
| ◆806年 | (大同元年) | 宮内に吉備津一宮神社鎮座、尾張の国より祠官永江権守正房来住。
旧庄原本町、川手、新庄、宮内が領域。空海、帰朝し真言宗を伝える。 |
| ◆859年 | (貞観元年) | 山内に日吉神社建立。 |
| ◆1076年 | (治暦3年) | 出雲大社造営。 |
| ◆1185年 | (文治元年) | 平氏一門滅亡。 |
| ◆1258年 | (正嘉元年) | 山内時業、下原、比和を治める。 |
| ◆1303年 | (嘉元元年) | 毛利家、長井頼秀、信敷荘を治める。 |
| ◆1333年 | (元弘2年) | 足利尊氏の勢力下。 |
| ◆1359年 | (正平14年) | 宝蔵寺に宝きょう印塔建立。 |
| ◆1374年 | (文中3年) | 長江荘、今川頼泰預け状。 |
| ◆1401年 | (応永8年) | 永江庄、沖家文書。 |
| ◆1493年 | (明応2年) | 永江荘、山名俊豊書状。 |
| ◆1553年 | (天文22年) | 山内氏、毛利家の支配下に入る。毛利氏、尼子氏と戦う。 |
| ◆1556年 | (永禄9年) | 毛利元就、尼子義久を破る。 |
| ◆1570年 | (元亀元年) | 12月に庄原塩市始まる(九日市の起こり)。 |
| ◆1571年 | (元亀2年) | 毛利元就死す、75歳。 |
| ◆1577年 | (天正5年) | 宮内村、三河内通忠没す。 |
| ◆1580年 | (天正8年) | 山内城主、首藤上野介隆通が宮内八幡神社を再建。 |
| ◆1600年 | (慶長5年) | 関ヶ原の戦い、毛利氏は防長へ転封。福島正則が広島入城。 |
| ◆1619年 | (元和5年) | 福島正則が改易され、永野勝成が福山藩神辺城主、浅野長晟が広島藩
広島城主。 |
| ◆1633年 | (寛永10年) | 三次藩初代藩主浅野長治が鳳源寺建立。 |
| ◆1720年 | (享保5年) | 宮内八幡神社の華表(鳥居)、高茂の高瀬の石で建立。 |
| ◆1736年 | (享保21年) | 3月11日、宮内八幡神社、正一位の神位の勅許。 |
| ◆1871年 | (明治4年) | 廃藩置県。 |
| ◆1876年 | (明治9年) | 岡山県から備後6郡が移管し、広島県域確定。 |

《情報＆原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室＆講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- どらくろあで地元の記事を書いてみませんか?

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

『庄原メイプルラジオ』

毎週日曜日
13時～放送中!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の
何気ない日常の話と地域の情報や
ゲストを招いて放送する地域密着
エンタメ放送!!

YouTube

和家チャンネル:



陶芸教室

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

自作のお茶碗で
お茶を飲んで
みませんか?

- 金・土・日曜日開催
- 場所: 県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用: 一回500円+材料費
- 連絡先: 0824(74)0686 洲沢(スザワ)

— 参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

みよし運動公園の屋内&屋外コートで、硬式テニスの例会を行っています。

- ・ 火曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 水曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 土曜日 (12:00 ~ 14:00)

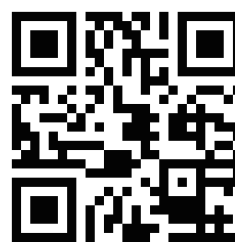
入会金、会費等は必要なく、コート利用料だけを当日の参加者で分割負担。現在、50人をこえる会員がいて、ご自分のペースでエンジョイされています。例会だけではなく定期的にMTECの大会や他の地域のテニスクラブとの交流会を開催。興味のある方は、一度、例会にご参加ください。見学も歓迎します。

連絡先: 中川 (☎080-5610-2376)

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、
ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



発行: どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料: 2,000円(郵送料込)

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇あけましておめでとうございます。古本屋の「どら書房」、ミニコミ誌の「県北どらくろあ」、本年もよろしくお願ひします。

◇「群星伝」の中村慎吾さん、以前から推薦していたので、以前から推薦していたので、満を持して新年号に登場していただきました。研究エリアが多岐にわたる方なので、切り口を何にするかで大いに迷いました。

◇飼猫の名前がすっかりこないの、どら書房のママで「ドラマ」に変更。三文字の方がインパクトが強いのか、ドラマと呼ぶと反応します(たぶん)。部屋の環境にも馴れて、かなり淑女になってくれたのですが、ときどき怖い目で睨みます。そのときは、「ドラ魔」だと呟いています。

第192回

しょうばら 九日市

平成29年

1月9日 (月)

9:00~13:00

トピックス

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」では折り紙で現す赤穂四十七士 時 1月8日(日)~10(火) 10時~16時
- ★12月21日「しょうばら九日市愛好会」が県知事表彰の「いきいき地蔵づくり賞」を受賞しました。
- ★12月22日にRCCテレビ「イマなまっ!」の「庄原市特集」で「九日市」が放映されました。

★風龍……九日市スペシャル! 餃子200円!

★どら書房…営業時間 9:30~19:00

毎週 月曜日と火曜日は休み

広島みどり信用金庫	まち屋café あさ井	シオ
マルエイ	楽笑座P	

楽笑座P	山下表具店	12	どら書房古本	広島銀行	敬ちゃん時計店	備後庄原 ↑
------	-------	----	--------	------	---------	--------

		楽笑座 まかない食堂 11:00-12:30 うた声喫茶 13:30-15:00
11	元庄原寿司	11
10	克國水産	田邊酒店
9	元かいち	9

リトルマーメイド	きくやランチ	〒
13	西上	13
吉備路花田FF くんえん工房 香豚 ハナヒラタケ広島 山本水産 庄の助栄泉		
吉岡中央堂	14	阿波屋刃物
14	タナベ	14

ギャラリー アート多愛夢		
8	アパレルゴトー 岡本織維	8
7	元タケムラ	7
6	須澤宅	6
6	Room of Keiko めだかの学校 ママンドール	6
5	三上宅	5

藤田金物店	15	砂田海産 田崎屋
15	三軒茶屋ランチ	15
15	まちなか広場	15

5	工房アム	5
4	天野宅	4
4	椰家(なぎんち)	4
3	内海宅	3
3	さだっさ リトルマーメイド 二八そば加工所 昭助 手作りリ工房アーミッシュ 健康企画グループ	3
3	横山宅	3
2	ギャラリー三村	2
2	宮田宅	2
	キッチン北川	

16	元イタクラ	16
16	どんぐり~ず	16
本郷薬局	15	砂田海産 田崎屋
セラ百貨店	15	まちなか広場
15	三軒茶屋ランチ	15
15	まちなか広場	15

1	すけあくろう	1
1	九日市カフェ	1

牧原医院	庄原警察署	Let's 風龍	横山旅館SS	↓ 中国自動車道 庄原IC
------	-------	----------	--------	---------------------

当日の天候により、断り無く
出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース 1,000円~
九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座 内
TEL / FAX (0824) 72-8285

くんちいちホームページ http://www.kunchi-ichi.jp 直前情報見てね!	駐車場 P	庄原市役所
--	----------	-------